

より善い教育・学びのために

Manzenbo

Vol. 1

September
2020

大分大学 高等教育開発センターレポート 平成 31 年度 / 令和元年度 (2019 年度) 報告書号



旦野原キャンパスの藤棚 (令和 2 年 (2020 年) 5 月撮影)

コンテンツ

1. 巻頭言	1
2. 高等教育開発センター主催・共催の FD プログラム	2
2.1 宿泊型 (1 泊 2 日) 新任教員研修：授業デザインの基礎ワークショップ	
2.2 ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成ワークショップ	3
2.3 第 2 回大分合同 FD・SD フォーラム「学生の学修成果の把握とマネジメント」	
2.4 令和元年度 (2019 年度) 実施の主な FD プログラム一覧	4
3. 教学 IR	5
3.1 IR センターの設置	
3.2 大学 IR コンソーシアムの学生調査	
3.3 成績評価分布の適切性の検証	
3.4 学生による授業評価 (授業改善のためのアンケート調査)	6
4. 大学開放推進部門・生涯学習支援システム部門	9
4.1 大学開故事業の推進	
4.2 大学教育と生涯学習の接続・連携	12
4.3 地域生涯学習支援システムの整備への取り組み	
5. 令和元年度 (2019 年度) 高等教育開発センター名簿	14
6. 教員向けお知らせ	15

1. 巻頭言



高等教育開発センター長
中島 誠

日頃より高等教育開発センターの活動へのご理解とご協力をいただきありがとうございます。高等教育開発センターの平成31年度／令和元年度(2019年度)報告書をお届けします。メディア・IT応用, FD・授業評価, 大学開放推進および生涯学習支援の各分野で行った主要な取組を整理する形でまとめました。

平成から令和へ改元した昨年度は, 二つの新たな取り組みがありました。一つは, 県内大学等と合同での宿泊型新任教員研修会です。県内8高等教育機関の先生方にご参加いただきました。開催者側も他大学の授業デザインワークショップで事前に研修を積むなど準備に大奮でしたが, ご参加の先生方からは好評をいただきました。もう一つは, IRセンターの設置に伴う教学IRの促進です。学生の成績評価分布の適切性の検証, 授業改善のためのアンケート調査の詳細な分析など, 教学IRに不可欠なデータの集計・分析に工夫を凝らしています。

新型コロナウイルス COVID-19 の感染拡大は, 日本のみならず世界中の多くの教育現場に, 対面型授業を実施できないという, 昨年中は想像もできなかった苦難をもたらしました。その収束は未だ見通せず, 第2波, 第3波流行への備えも必要である上, With コロナ／After コロナ時代を見据えた新しい高等教育への転換が求められています。このような状況下で, 上記のような, 複数機関の協力による授業デザインと改善, そのために必要な詳細な基礎データの収集と分析は, 今後ますます重要となる取組であると考えています。これまで, センターの事業運営に多大なご支援をいただいた学内外の皆様, この場を借りて感謝申し上げますとともに, どうぞ今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

令和2年(2020年)9月

Manzenbo の由来



“Manzenbo”は, 大分県(豊後国日田郡)の教育者, 廣瀬淡窓(1782-1856年)の「万善簿」に由来します。淡窓は, 筑前国の亀井南冥, 亀井昭陽の亀井塾で学び, その後, 国内最大規模となる私塾「咸宜園」を開設して, 身分や男女を問わず優れた教育を提供しました。淡窓は亀井塾で学んでいた時期に, 明の袁了凡が記した善書『陰騭録』を読んで強く影響を受け, 後に「万善簿」(別名, 「義欲考」, 「敬怠考」)を作成しました。「万善簿」は, 『陰騭録』に登場する雲谷禅師が薦めた, 道教の「功過格」(所行を功(善)と過(悪)に分けて格付けし, それぞれにプラスとマイナスの点数を付して, 月末や年末に集計)を, 淡窓が実践し一万の善をめざした記録です。淡窓は, 原稿や帳簿の余白に, 日々の行為のメモとともに, 点数の数だけ功には白丸を, 過には黒丸を記しました。孫娘が病気で亡くなった54歳から継続的記録を開始し, 67歳で万善を達成しました。先哲に学び, 本学の教育活動を評価・省察し, 改善することを意識して名付けました。

2. 高等教育開発センター主催・共催のFDプログラム



令和元年度（2019年度）に本学の各部局で開催されたFDへの全学教員の参加率は、**73.81%**でした。以下に、令和元年度（2019年度）に高等教育開発センターが主催・共催した主なFDプログラムを紹介します。

2.1. 宿泊型（1泊2日）新任教員研修：授業デザインの基礎ワークショップ

令和元年（2019年）11月9日から10日にかけて、初めての試みとして県内大学等と合同での宿泊型新任教員研修会「授業デザインの基礎ワークショップ」を日本文理大学湯布院研修所で開催しました。これは、平成30年度（2018年度）に開催した、第1回大分合同FD・SDフォーラムにおける、講師の中井俊樹先生（愛媛大学教育・学生支援機構教授）からの「県内大学等で連携する取組としては、新任教員研修会から始めるのが良い」というアドバイスに基づき、県内大学等のFD・SD担当で検討してきたものです。

大分県での開催に先立って、鈴木（大分大学高等教育開発センター）と黒田匡迪先生、東寺祐亮先生（日本文理大学）の3人が、愛媛県今治市湯ノ浦で開催された愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）主催の第32回愛媛大学授業デザインワークショップに一参加者として参加させていただきました。研修のノウハウについて小林直人先生（教育・学生支援機構教育企画室長（副機構長））をはじめ講師の先生方に教えていただきました。

大分県での実施において、日本文理大学からは会場の提供をはじめ、FD委員長 西村謙司先生（工学部教授）の多大な支援をいただきました。当日は、大分県立芸術文化短期大学、大分工業高等専門学校、大分大学、日本文理大学、別府大学、別府大学短期大学部、別府溝部学園短期大学、立命館アジア太平洋大学の先生方にご参加いただき、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程を2日間にかけてグループ作業として体験していただきました。

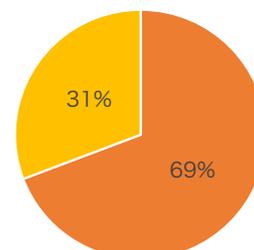
事後アンケートの結果を踏まえて、今後はより一層実践的で具体的な内容になるように改善していきたいと考えています。



模擬授業に向けての授業設計のための協同ワーク



由布岳を背景に集合撮影



事後アンケート結果：「本ワークショップは全体を通して満足できるものであった」

■ディプロマポリシーを達成するためのシラバス作成と様々なアクティブラーニングを取り入れた授業展開をしていきたい。

■シンク・ペア・シェアの手法をぜひ実践してみたい。

■レポート課題を出すときに、評価基準を学生に示すようにしたい。

スケジュール 1日目

時刻	内容
9:30	(1) オリエンテーション 開会のあいさつ [西村謙司 (日本文理大学)] ●研修の目的・目標の確認 ●スタッフ紹介とお願い
9:40	(2) アイスブレイキング [鈴木雄清 (大分大学)] ●自己紹介 ●グループワーク
10:00	(3) ミニ講義Ⅰ「コース設計&クラス設計」 [鈴木雄清 (大分大学)] ●1科目(コース)の授業計画の立て方 ●90分授業の基本構成 ●90分(クラス)の授業計画
11:00	休憩
11:10	(4) ミニ講義Ⅱ「シラバスの書き方&学修評価の基本」 [鈴木雄清 (大分大学)] ●目標設定 ●成績評価の目的 ●評価の方法と評価対象
12:10	集合写真撮影・昼食・休憩
13:10	(5) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ●シラバス作成 ●目標設定 ●1科目(コース)の授業計画の立て方
15:10	(6) 中間発表(発表3分, コメント8分)
16:00	(7) ミニ講義Ⅲ「学習者の学びを促進する様々な授業方法」 [東寺祐亮 (日本文理大学)] ●講義形式のメリット・デメリット ●双方向型授業のコツ ●体験型授業 ●参加型授業
17:00	(8) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ●授業計画案作成
18:00	チェックイン, 移動, 休憩
18:30	夕食・交流会
20:00	(9) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ●授業計画案作成
21:30	自由時間・入浴・お悩み相談

2日目

時刻	内容
7:30	朝食
8:30	(10) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ●模擬授業の練習
10:00	(11) 模擬授業 ●模擬授業 10分 ●討議・検討 15分
12:00	(12) 閉会式 [牧野治敏 (大分大学)] ●グループ作業の振り返り：学んだことは何か、どう実践に活かすか? ●大学教員としての今後の質向上 ●修了証書授与 ●閉会の言葉
12:30	昼食
13:45	解散・現地出発

参加者の声

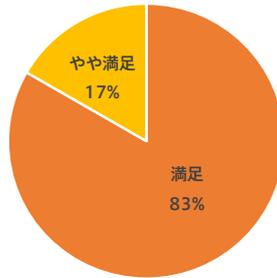
正木遥香（高等教育開発センター）

所属も専門も違う初対面の先生方との共同作業ということで、最初は緊張もありましたが、自然と打ち解けられるような気遣いや工夫がなされており、和やかな雰囲気の中で学ぶことができました。印象的だったのは、模擬授業の検討を行う際に、大学教員としてどのような役割を果たすべきか、という本質的な視点から自分の授業を振り返る機会をいただけたことでした。学生の将来を見据えた授業設計の必要性を再認識するとともに、これまで漠然としていた「よい授業」の輪郭が見えてきたように思います。研修を受ける前は目の前の授業をどうするかで手一杯でしたが、新しい授業をすることになったとしても対応する自信が少しつきました。

2.2. ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成ワークショップ

令和元年（2019年）7月12日に、大阪府立大学工業高等専門学校教授の北野健一先生を本学にお招きして、ティーチング・ポートフォリオ（TP）・チャート作成のためのワークショップを開催しました。TPを作成するためにはおよそ3日間の日程が必要ですが、今回はTPチャートを作成するまでの4時間のワークショップとしました。TPチャートとは、東京大学大学総合教育研究センターの栗田佳代子先生が開発した、教員が自身の教育活動の俯瞰と振り返りを行い、授業改善につなげることを目的としたワークシートです。TP作成の体験ツールとして開発され、TP作成の事前準備としても利用されます。

本ワークショップの開催については、県内大学等のFD・SD担当者で構成されるFD・SD担当者会議を通じて県内大学等の教員に広報していただき、県内大学等の教員にもご参加いただきました。TPチャートの作成過程では、段階的に相互にTPチャートをシェアし、対話しながら改訂していきましました。少人数の参加者ではありましたが、ペアワークでは活発な意見交換がなされました。令和2年度以降も継続的にワークショップを開催することを計画しています。



事後アンケート結果：総合評価

- 自分自身の授業を可視化し見直す機会となった。
- 他大学教員とのコミュニケーションが貴重な経験となった。
- 自分の授業を改善する目標ができた。



講師の北野健一先生による
ティーチング・ポートフォリオの解説



TPチャートを用いたペアワーク

2.3. 第2回大分合同FD・SDフォーラム「学生の学修成果の把握とマネジメント」

令和2年（2020年）2月7日に、「大学等による「おおいた創生」推進協議会」と「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の主催で、大分県内の大学等が連携して実施する2回目となるFD・SDフォーラムを別府大学・別府大学短期大学部で開催し、98名の方々にご参加いただきました。高等教育開発センターは、本フォーラムを企画している県内大学等のFD・SD担当者会議の事務局やマネジメントを担当しています。

本年度のフォーラムでは、同志社大学の山田礼子先生を講師にお迎えして、学生の成長に関するAstinのIEOモデルや、学修成果測定の研究や実践の軌跡、直接評価と間接評価の統合、同志社大学の学生調査を活用した教育改善の事例についてご講演いただきました。その後、県内大学等の取組として、別府大学の学修成果の可視化の取組、立命館アジア太平洋大学国際経営学部の質保証の取組、日本文理大学の教学IRに基づく教育改革の成果について、それぞれ報告いただき、学生の能力を伸ばし、学生の満足度を高めるために、どのような支援が必要かについての討論が行われました。



山田礼子先生による講演
「学生の成長を支える大学教育：
学修成果の可視化に向けて」

スケジュール

時刻	内容
13:30	開会あいさつ [飯沼賢司 (別府大学長)]
13:40	【講演】学生の成長を支える大学教育：学修成果の可視化に向けて [山田礼子 (同志社大学社会学部教授)]
15:25	県内大学等の取組の現状と課題 (司会 [西村靖史 (別府大学文学部教授)]) 別府大学 [三重野佳子 (別府大学食物栄養科学部教授)] 立命館アジア太平洋大学 [大塚宏蔵 (立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授)] 日本文理大学 [吉村充功 (日本文理大学工学部教授)]
16:25	総合討論
16:50	閉会あいさつ [村嶋幸代 (大分県立看護科学大学理事長・学長)]



学生の学修成果の把握とマネジメントに関する県内大学等の
取組の現状と課題についての総合討論

2.4. 令和元年度（2019年度）実施の主なFDプログラム一覧

2.4.1. 研修会・ワークショップ・フォーラム等

	開催日・場所	研修会名	概要【講師等】	参加者数 (うち学外参加者数)
1	5月15日 教育学部棟 情報システム室D	Moodle 研修会（導入編）	Moodle 導入で可能になることを体験し、授業で Moodle や授業支援ボックスの基礎的な活用ができるようになることをめざす。 [鈴木雄清（高等教育開発センター）]	17名
2	6月26日 教養教育棟 CALL 教室	経済学部 FD 研修会 Moodle 研修会（反転授業の基礎）	反転授業の考え方や利点を踏まえたうえで、Moodle と PowerPoint を用いて反転授業のためのオンラインビデオ教材の作成と配信ができるようになることをめざす。 [鈴木雄清（高等教育開発センター）]	11名
3	7月12日 教養教育棟 25号	ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成ワークショップ	自己の教育についての省察を文章化し、エビデンスによる裏付けを加えた教育実践の記録を作成する。 [北野健一（大阪府立大学工業高等専門学校教授）]	7名（2名）
4	7月26日 教養教育棟 28号	アクティブラーニング研修会「授業にインプロを取り入れてみよう：コミュニケーション能力を高める教育のヒント」	教育の場面で活用されるインプロ（インプロヴィゼーション：即興的パフォーマンス）が、学生のコミュニケーション能力の向上などに効果があることから、演劇教育で実績のある講師からその有効性について実践的に学ぶ。 [仙石桂子（四国学院大学准教授）]	11名
5	11月9日 日本文理大学 湯布院研修所	宿泊型（1泊2日）新任教員研修：授業デザインの基礎ワークショップ	授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経て、授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を身につける。 講師・ファシリテーター [鈴木雄清・牧野治敏（大分大学）、黒田匡迪・東寺祐亮・西村謙司（日本文理大学）]	15名（13名）
6	12月18日 教育学部棟 情報システム室D	Moodle 研修会（活用編）	自動採点や即時フィードバック、繰り返しの学習が可能で、知識の確認や定着に効果的な小テストを Moodle で作成できるようにする。 [鈴木雄清（高等教育開発センター）]	10名
7	11月27日 教育学部 第1会議室	メンタルヘルス講演会「発達障害のある大学生の修業困難とサポート」	発達障害などの課題を持ち、学生生活に支障をきたしている学生に対するサポートについて大学での具体的な支援等を事例から学ぶ。 [吉田ゆり（長崎大学副学長（ダイバーシティ推進担当）・教育学部人間発達講座教授）]	52名
8	1月30日 16:30-18:00 教養教育棟 35号 挟間キャンパス 看護学科棟 222 講義室（配信）	きっちよむフォーラム 2019「学生の課題解決能力を育成する授業について」	I. 具体的な授業の実施報告 1. 学部での PBL 型授業の取り組み [岩本光生（理工学部教授）] 2. 高度化教養科目（地域豊じょう型）での取り組み [石川雄一（理工学部教授）] 3. 医学部と福祉健康科学部学生合同による多職種連携にむけた合同演習・チュートリアル開催 [兒玉雅明（福祉健康科学部教授）] II. 課題解決能力の育成のために（意見交換）	13名
9	2月7日 別府大学 37号館 メディアホール	大分合同 FD・SD フォーラム「学生の学修成果の把握とマネジメント」	I. 講演「学生の成長を支える大学教育：学修成果の可視化に向けて」 [山田礼子（同志社大学教授）] II. 報告「県内大学等の取組の現状と課題」 1. 「別府大学における学習成果の可視化の取り組み」 [三重野佳子（別府大学食物栄養科学部教授）] 2. 「立命館アジア太平洋大学における AOL の取り組み」 [大塚宏三（立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授）] 3. 「日本文理大学における学生の学習成果の把握と教育の現状」 [吉村充功（日本文理大学学長室室長・工学部教授）]	98名（79名）

2.4.2. 教員相互の授業参観

前期			後期		
実施日・場所等	科目名【担当教員】	参加者	実施日・場所等	科目名【担当教員】	参加者
6月20日 教育学部棟 100号	「小学校教材研究（社会・理科・生活）」 [土居晴洋・社会担当教員（教育学部）]	1名	10月28日 教育学部 100号	「家庭（小）」 [都甲由紀子（教育学部）]	1名
6月26日 教養教育棟 24号	「大分の地域資源」 [鈴木雄清（高等教育開発センター）]	1名	11月18日 教育学部 303号	「知的障害児の教育と指導法」 [衛藤裕司（教育学部）]	1名
6月28日 理工学部 104号	「基礎理工学 PBL」 [応用化学コース全教員（理工学部）]	1名	11月26日 経済学部 201号	「サービス現場のフィールドワーク」 [仲本大輔・社会イノベーション学科全教員（経済学部）]	2名
7月3日 教養教育棟 31号	「アカデミック・ライティング入門」 [正木遥香（高等教育開発センター）]	1名	12月3日-1月 16日の計9回	「薬理学」 [石崎敏理（医学部）]	1名
7月8日 経済学部 301号	「アントレプレナーシップ入門」 [河野憲嗣・渡邊博子（経済学部）]	4名	12月24日 教養教育棟 35号	「カラダの見方・考え方」 [牧野治敏（高等教育開発センター）]	1名
7月8日	「医療英会話Ⅲ」 [大下晴美（医学部）]	1名	1月27日 教養教育棟 22号	「応用理工学 PBL」 [岩下拓哉・自然科学コース全教員（理工学部）]	2名
7月12日	「健康科学概論」 [中川幹子（医学部）]	2名			

※医学部看護学科が学科で実施している教員相互の授業参観については、本リストに含まれていません。

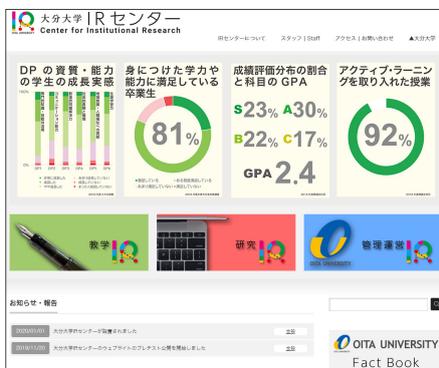
3. 教学 IR



3.1. IR センターの設置

本学の IR 体制の強化を図るために、令和 2 年（2020 年）1 月 1 日に IR センターが設置されました。それに伴って、高等教育開発センターのメディア・IT 部門長は兼任となり、4 月 1 日からは、高等教育開発センターで高等教育に関する役割を担う専任教員は 1 名となりました。

IR センターは、本学の経営、戦略、意思決定等に資する情報を提供することを目的に、入学者選抜、教育や学修の質保証、外部資金の獲得、研究活動、社会貢献等に係るデータを一括して収集、管理、分析し、エビデンスに基づいた大学運営を支援します。高等教育開発センターでは、教育や学修の質保証の取組において IR センターと連携して実施していく予定です。



IR センター概観
(本部管理棟隣 旧業務支援室プレハブ)

3.2. 大学 IR コンソーシアムの学生調査

3.2.1. 在学生調査

本学は、平成 28 年度（2016 年度）から大学 IR コンソーシアムに加盟し、加盟大学共通で実施する新入生（1 年生）と上級生（3 年生）を対象とした学生調査に参加しています。本調査は、学生の学習行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を中心とした調査項目を含んでおり、学生が本学での学びをどのように受けとめて、どのように評価しているのかを調べることを目的としています。米国の大学生調査 NSSE（National Survey of Student Engagement）や CIRP（Cooperative Institutional Research Program）をモデルとしており、会員校が共通の調査項目で実施するため、ベンチマーク可能な標準調査として位置づけられます。高等教育開発センターでは、平成 29 年（2017 年）度から Moodle のアンケート機能を活用し、学生が各自のスマートフォン等を用いて Web 回答する形式で実施しています。

3.2.2. 卒業生調査

令和元年度（2019 年度）は試行的に、卒業後 5 年目、10 年目、15 年目を迎えた卒業生を対象とした全学的な調査を実施しました。調査はウェブ方式とし、学生支援部教育支援課が大分大学同窓会連合会に依頼するかたちで、卒業生への調査依頼を呼びかけていただきました。調査内容は、本学が参加している大学 IR コンソーシアムの卒業生調査に準拠する項目を主とし、現在の本学のディプロマ・ポリシーに照らして、社会でどのような資質・能力が必要とされているかを尋ねる項目等を加えました。

結果は、非常に低い回収率となりましたが、本学の教育との改善に役立つと思われる多くの回答をいただくことができました。ご協力くださいました同窓会や卒業生の皆様に御礼申し上げます。今後分析し、結果を報告する予定です。

3.3. 成績評価分布の適切性の検証

本学では平成 29 年度（2017 年度）に教務部門会議で承認された方法に従い、教育支援課と高等教育開発センターが支援する形式で、各学部で平成 27 年度（2015 年度）分以降の成績分布の検証を実施しています。平成 30 年度（2018 年度）以降は、非常勤講師の先生方にも成績分布の適切性の検証を実施している旨の連絡と協力をお願いを行っています。平成 30 年度（2018 年度）の成績評価分布の適切性の検証の対象となったのは 1,829 科目、延べ受講者数は 83,406 名でした。大学全体の成績評価分布は以下の表のとおりです。

平成 30 年度（2018 年度）の開講科目（全学）の成績評価分布

S	A	B	C	D	F+	F	保留	GPA
23.7%	27.6%	23.1%	17.7%	0.1%	1.6%	6.1%	0.1%	24.1

3.4. 学生による授業評価（授業改善のためのアンケート調査）

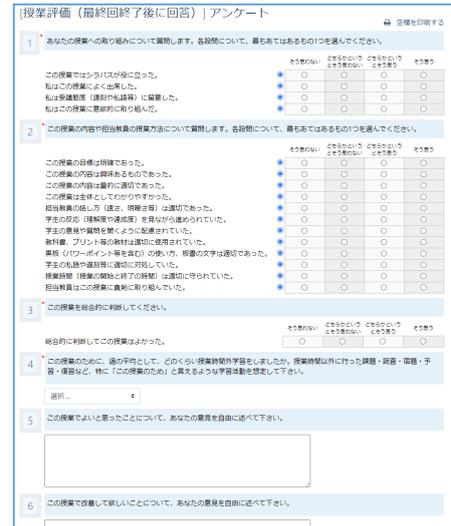
本学では、平成 12 年度（2000 年度）に全学的な調査を開始して以来、マークシート方式を採用しています。マークシート方式の利点として、授業中に回収するために回答率が高いことが挙げられます。令和元年度（2019 年度）についても 8 割という高い回収率が得られました。

3.4.1. アンケート方法の見直しに向けて：マークシート方式からウェブ調査へ

これまで本調査で採用していたマークシート方式では、マークシート用紙の費用に加えて、マークシートの配付・回収、読み取り作業にかかるコストが大きいという欠点があります。そのため、理工学部や医学部医学科では原則として全科目を対象としているものの、教養教育科目等では対象科目の絞り込みが行われてきました。また、対象科目の担当教員へのマークシートの配付は、セメスターの後半に一斉に行ってきたため、柔軟な学事暦を採用している科目や集中講義などではアンケートが実施しにくいという問題があります。さらに、メディア授業として遠隔で実施される科目においても調査が困難です。

そこで、令和元年度（2019 年度）は柔軟な学事暦を採用している医学部医学科の実習科目を除く全科目を対象に、Moodle の Questionnaire モジュールを用いた調査を試行的に実施しました。対象科目の Moodle コースにアンケート実施用のユーザを紐付け、アンケートを設置し、アンケート実施期間後にデータを科目別に回収するため、必ずしもコストは軽減できていません。

令和 2 年度（2020 年度）には、教務情報システム（CAMPUS SQUARE for WEB）を用いた調査の試行を開始します。教務情報システムを用いることによって、全開講科目を対象として調査ができるようになることが期待されます。ただし、ウェブ調査では回収率が低下することが予想されますので、そのための対策を検討していく必要があります。



Questionnaire モジュールによるアンケート画面

3.4.2. 本学の学生にとって満足度が高いのは「わかりやすい」授業

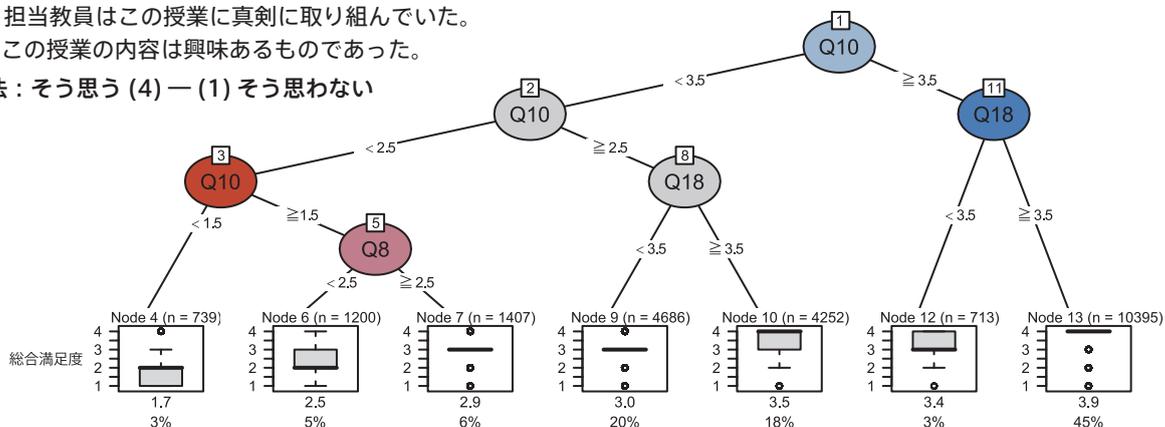
令和元年度（2019 年度）の学生による授業評価アンケートの結果から、本学の学生にとって満足度の高い授業とは何かを検討しました。授業評価アンケートの質問のうち、科目の総合満足度に関する項目の回答を目的変数とし、授業外学修時間の項目を除いた 16 項目の回答を説明変数として CART アルゴリズムによる決定木分析を行った結果を図に示します。科目の総合満足度（問 20）を最も決定づけているのは、わかりやすさ（問 10）でした。わかりやすさに加えて、担当教員の真剣な取り組み（問 18）を学生が認識すると、総合満足度は高くなります。また、わかりやすくない科目であっても、内容に興味を持てれば（問 8）、総合満足度はある程度高くなります。

Q10. この授業は全体としてわかりやすかった。

Q18. 担当教員はこの授業に真剣に取り組んでいた。

Q8. この授業の内容は興味あるものであった。

4 件法：そう思う (4) - (1) そう思わない



総合満足度を目的変数とした決定木分析の結果 (n=23632)

3.4.3. 令和元年度（2019年度）後期調査の単純集計結果

1. 調査方法 マークシート方式, Moodle のアンケート機能 (医学科のみ)
2. 調査概要

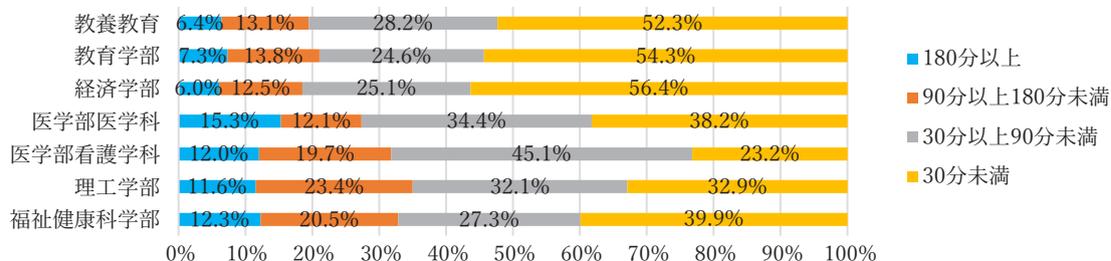
学部・学科	対象科目	対象科目	実施科目	履修登録者	有効回答者	回答率 (%)
教養教育	全学共通科目 主題④ (社会・経済)	8	8	854	642	75.2
教育学部	B グループ (授業担当名さ~の)	25	20	1,302	1,184	90.9
経済学部	各学科 2 番目の講座科目 (社会イノベーション学科全科目), 学部共通科目	30	22	2,016	1,325	65.7
医学科	医学部提出科目	-	29	-	340	-
看護学科	医学部提出科目	4	4	247	235	95.1
理工学部	全科目	125	103	5,992	4,667	77.9
福祉健康科学部	全科目 (学外実習及び基礎研究科目を除く)	68	48	2,291	2,066	90.2
合計		260	234	12,702	10,459	82.3

3. 結果

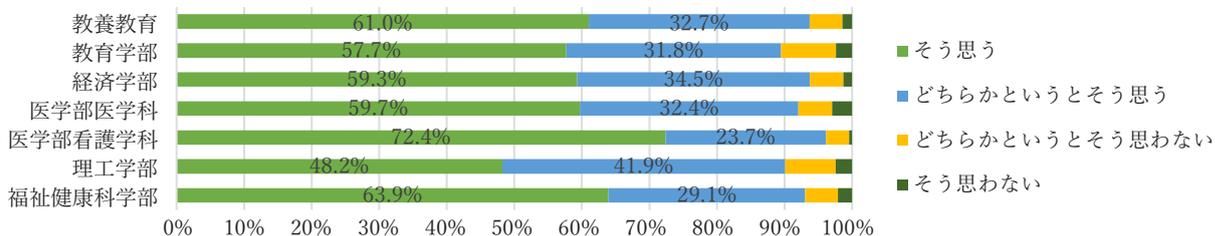
3.1. 設問 3-20 の結果 (数値は平均値 (4 点満点) と標準偏差 (SD))

設問番号 / 項目	教養教育	教育学部	経済学部	医学科	看護学科	理工学部	福祉健康科学部	全学
3. シラバスが役に立った	3.09(.85)	2.96(.91)	3.30(.76)	2.64(1.01)	3.29(.74)	3.09(.84)	3.12(.87)	3.10(.86)
4. 授業に出席した	3.67(.55)	3.68(.60)	3.64(.58)	3.63(.72)	3.90(.36)	3.55(.64)	3.70(.56)	3.62(.61)
5. 授業態度に留意した	3.61(.61)	3.60(.62)	3.60(.59)	3.54(.70)	3.77(.48)	3.48(.66)	3.64(.58)	3.55(.63)
6. 意欲的に取り組んだ	3.47(.63)	3.53(.65)	3.41(.66)	3.43(.73)	3.66(.55)	3.34(.70)	3.55(.61)	3.43(.67)
7. 目標が明確だった	3.47(.68)	3.44(.70)	3.43(.69)	3.34(.78)	3.65(.57)	3.37(.71)	3.53(.66)	3.43(.70)
8. 内容に興味があった	3.39(.74)	3.37(.77)	3.39(.70)	3.37(.75)	3.55(.69)	3.24(.75)	3.50(.68)	3.34(.74)
9. 量的に適切だった	3.43(.68)	3.40(.74)	3.42(.68)	3.28(.76)	3.44(.64)	3.28(.77)	3.45(.73)	3.36(.74)
10. 分かりやすかった	3.40(.71)	3.35(.79)	3.37(.73)	3.33(.75)	3.49(.67)	3.20(.83)	3.44(.72)	3.31(.78)
11. 話し方は適切だった	3.53(.66)	3.38(.78)	3.50(.66)	3.38(.70)	3.65(.59)	3.35(.74)	3.54(.67)	3.43(.72)
12. 反応を見ながら進められていた	3.37(.74)	3.34(.78)	3.37(.73)	3.24(.82)	3.51(.66)	3.27(.78)	3.47(.71)	3.34(.76)
13. 意見や質問を聞いていた	3.33(.78)	3.36(.76)	3.39(.76)	3.26(.80)	3.61(.56)	3.27(.77)	3.52(.69)	3.35(.76)
14. 教材を適切に使用していた	3.61(.61)	3.41(.72)	3.54(.62)	3.37(.74)	3.74(.51)	3.40(.71)	3.59(.63)	3.48(.68)
15. 板書やスライドは適切だった	3.54(.66)	3.35(.75)	3.50(.65)	3.29(.76)	3.68(.53)	3.38(.75)	3.57(.64)	3.44(.71)
16. 私語, 遅刻に適切に対処していた	3.46(.67)	3.37(.74)	3.38(.74)	3.26(.83)	3.57(.60)	3.33(.73)	3.55(.63)	3.40(.72)
17. 授業時間を守っていた	3.69(.55)	3.47(.76)	3.54(.66)	3.45(.69)	3.65(.55)	3.52(.64)	3.65(.59)	3.55(.65)
18. 担当教員が真剣に取り組んでいた	3.70(.53)	3.62(.63)	3.69(.53)	3.56(.66)	3.85(.38)	3.56(.61)	3.71(.56)	3.63(.59)
20. 総合的によかった	3.55(.67)	3.46(.75)	3.53(.67)	3.49(.73)	3.70(.58)	3.37(.74)	3.56(.70)	3.46(.72)

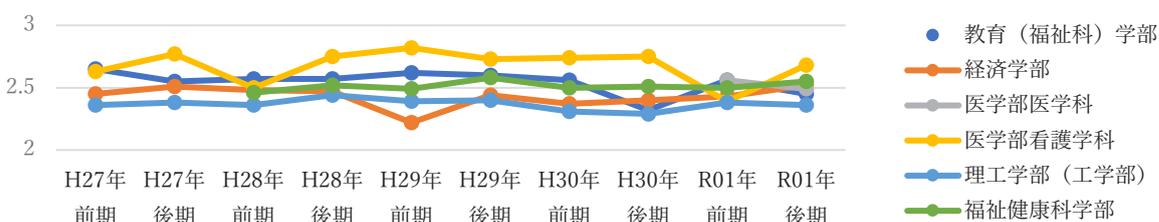
3.2. 設問 21. 「この授業のための, 週の平均としての授業時間外学修」の結果



3.3. 設問 20. 「総合的によかった」の評価別結果



3.4. 設問 20. 「総合的によかった」(3 点満点) の変移



3.4.4. 令和元年度（2019年度）前期調査の単純集計結果

1. 調査方法 マークシート方式, Moodle のアンケート機能（医学科のみ）

2. 調査概要

学部・学科	対象科目	対象科目	実施科目	履修登録者	有効回答者	回答率(%)
教養教育	全学共通科目 主題③（文化・国際）	29	24	959	743	77.5
教育学部	Aグループ（授業担当者の名前あ〜こ）	39	29	1257	1192	94.8
経済学部	各学科最初の講座の科目（社会イノベーション学科は全科目）、学部共通科目	32	29	3516	2595	73.8
医学科	医学部提出科目	-	20	-	577	-
看護学科	医学部提出科目	5	3	191	174	91.1
理工学部	全科目	134	116	7518	5710	76
福祉健康科学部	全科目（学外実習及び基礎研究科目を除く）	65	50	2336	2156	92.3
合計		304	271	15777	13147	79.7

3. 結果

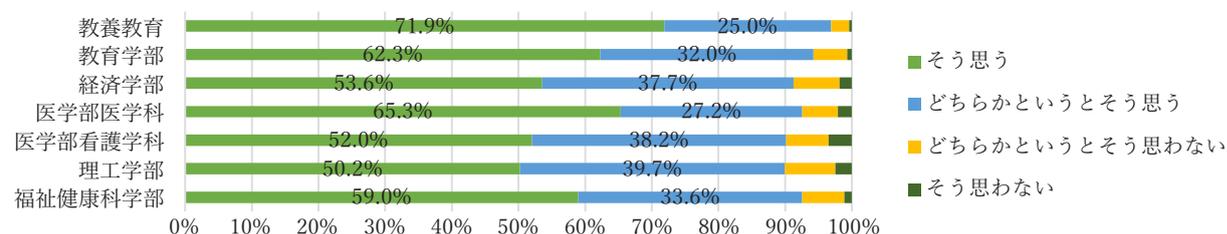
3.1. 設問 3-20 の結果（数値は平均値（4点満点）と標準偏差（SD））

設問番号 / 項目	教養教育	教育学部	経済学部	医学科	看護学科	理工学部	福祉健康科学部	全学
3. シラバスが役に立った	3.28(.87)	3.01(.88)	3.09(.89)	3.21(.91)	3.09(.86)	3.02(.90)	3.13(.87)	3.08(.89)
4. 授業に出席した	3.69(.57)	3.79(.48)	3.69(.57)	3.83(.47)	3.89(.33)	3.62(.63)	3.66(.58)	3.67(.59)
5. 授業態度に留意した	3.62(.59)	3.67(.55)	3.63(.59)	3.71(.57)	3.75(.45)	3.50(.67)	3.58(.62)	3.57(.63)
6. 意欲的に取り組んだ	3.48(.67)	3.60(.59)	3.46(.67)	3.57(.66)	3.61(.58)	3.37(.70)	3.50(.66)	3.45(.68)
7. 目標が明確だった	3.53(.66)	3.47(.67)	3.42(.69)	3.48(.74)	3.54(.62)	3.39(.71)	3.49(.67)	3.43(.69)
8. 内容に興味があった	3.52(.68)	3.49(.67)	3.33(.75)	3.46(.77)	3.41(.71)	3.24(.78)	3.44(.70)	3.34(.75)
9. 量的に適切だった	3.57(.60)	3.42(.72)	3.37(.74)	3.45(.76)	3.06(.92)	3.32(.76)	3.37(.76)	3.36(.75)
10. 分かりやすかった	3.47(.71)	3.40(.71)	3.26(.80)	3.38(.80)	3.32(.73)	3.23(.83)	3.36(.75)	3.29(.79)
11. 話し方は適切だった	3.64(.60)	3.52(.67)	3.41(.74)	3.52(.70)	3.32(.77)	3.37(.76)	3.45(.73)	3.43(.73)
12. 反応を見ながら進められていた	3.47(.74)	3.39(.73)	3.27(.79)	3.33(.84)	3.38(.73)	3.26(.80)	3.40(.75)	3.31(.78)
13. 意見や質問を聞いていた	3.51(.71)	3.42(.72)	3.31(.78)	3.42(.79)	3.43(.74)	3.27(.79)	3.43(.74)	3.34(.77)
14. 教材を適切に使用していた	3.67(.55)	3.57(.65)	3.54(.67)	3.53(.69)	3.55(.60)	3.43(.72)	3.57(.64)	3.50(.69)
15. 板書やスライドは適切だった	3.60(.64)	3.54(.65)	3.52(.67)	3.55(.67)	3.44(.69)	3.42(.74)	3.50(.69)	3.48(.70)
16. 私語、遅刻に適切に対処していた	3.36(.80)	3.39(.76)	3.43(.71)	3.38(.81)	3.34(.73)	3.33(.74)	3.48(.68)	3.38(.73)
17. 授業時間を守っていた	3.75(.50)	3.63(.60)	3.57(.65)	3.56(.71)	3.56(.75)	3.56(.65)	3.58(.64)	3.58(.64)
18. 担当教員が真剣に取り組んでいた	3.83(.40)	3.75(.49)	3.63(.60)	3.72(.56)	3.78(.43)	3.59(.61)	3.68(.56)	3.65(.58)
20. 総合的によかった	3.68(.54)	3.56(.62)	3.43(.70)	3.56(.69)	3.39(.76)	3.38(.73)	3.50(.67)	3.45(.70)

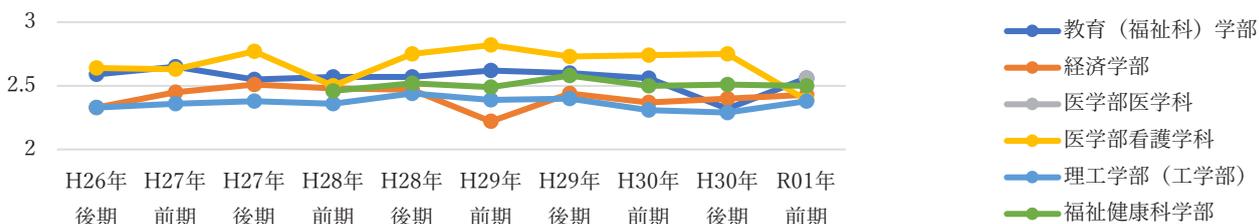
3.2. 設問 21. 「この授業のための、週の平均としての授業時間外学修」の結果



3.3. 設問 20. 「総合的によかった」の評価別結果



3.4. 設問 20. 「総合的によかった」（3点満点）の変移



4. 大学開放推進部門・生涯学習支援システム部門



高等教育開発センターの大学開放推進部門・生涯学習支援システム部門は、本学における大学開放事業の推進と、地域の生涯学習や地域づくりなどの取り組みを支援することを目的に活動しています。

4.1. 大学開放事業の推進

本部門では、教育面を中心に大学が有する様々な教育資源・研究資源を開放することで地域の取り組み等に貢献する大学開放事業を推進しています。従来から大学開放事業において主要な柱とされてきた「公開講座」（地域住民向けに独自に企画運営される講座）と大学（院）の正規授業科目を公開講座に準じる講習料で開放する「公開授業」が主要な取り組みです。公開講座・公開授業以外にも地域からの要請や学内からの支援依頼などに対応してセンター事業として各種の学習プログラムの企画・運営も行っています。

4.1.1. 公開講座

令和元年度の公開講座は、前期 11 講座、後期 12 講座の計 23 講座（前年度：26 講座）を実施し、受講者の合計は 540 名（前年度：929 名）でした。※新型コロナウイルスの影響により中止又は無期延期となった 3 講座含まず。講座数が 3 講座（11.5%）減少し、受講者が 389 人（41.9%）減少しています。※ R1 年度募集定員 847 名に対し、申込み 1,255 名（中止・無期延期講座含まず）。

○公開講座に関する過去 5 年間の講座数及び受講者数の変化

直近 5 年間の公開講座の講座数及び受講者数を図 1・図 2 に示します。

令和元年度は平成 30 年度（2018 年度）から 3 講座（11.5%）の減少となっています。第 2 期中期計画終了年度である平成 27 年度（2015 年度）との比較では 2 講座（9.5%）増加しています。受講者数は、540 人で平成 30 年度（2018 年度）の 929 人から 389 人（41.9%）減少しました。受講者数については基準となる平成 27 年度（2015 年度）の 674 人から 134 人（19.9%）減少しています。今後、新型コロナウイルスの影響を考慮しつつ、公開講座の実施方法や内容について見直しを進めていきます。公開講座に関しては、開設講座数や受講者数も社会貢献の状況を測定する指標であるが、地域活性化や青少年健全育成など社会的・地域的必要性の高いテーマに関しても充実を図っていきます。

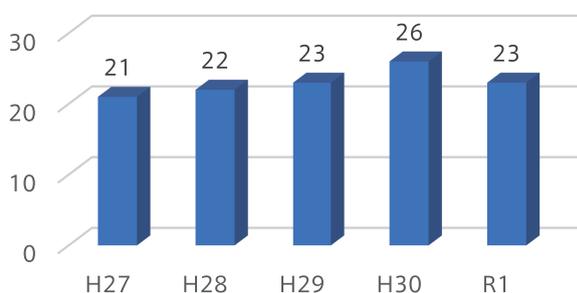


図 1. 過去 5 年間の公開講座開設数

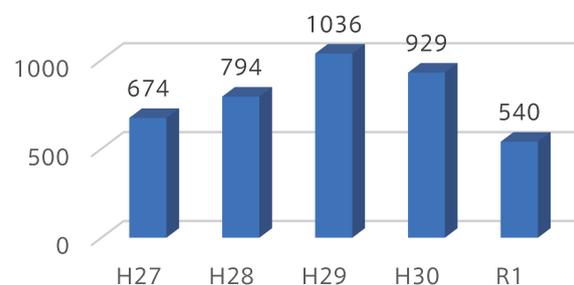


図 2. 過去 5 年間の公開講座受講者数

平成 24 年度（2012 年度）から「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の公開講座として開設している「豊の国学」は、中央講座と分野別講座を合わせて 117 名の参加がありました。コンソーシアムなどによる連携講座については、今後も継続的に取り組みを行う計画であり、NPO や企業など新たな連携相手を開発しつつ取り組みを進めます。



「豊の国学」中央講座『よりよい未来につながる消費行動を考える』



「豊の国学」分野別講座『共に！いきいき！糖尿病と関係の深い大分県民の健康状況と予防に役立つ情報』

表 1. 令和元年度（2019年度）開設の公開講座一覧

※各講座の詳細情報については、高等教育開発センターウェブサイト（<https://www.he.oita-u.ac.jp/openlec/>）に掲載。

部局	講座名	開設期間	受講者数
1 高等教育開発センター	自分の声を「調べ」にするための4つのレッスン（第1期）	4/23～6/4	12
2 保健管理センター	禁煙について考える	6/2	24
3 高等教育開発センター	自分の声を「調べ」にするための4つのレッスン（第2期）	6/18～7/23	9
4 高等教育開発センター	数寄屋袋をつくりましょう！	6/23	11
5 高等教育開発センター	第2回プログラミング教育研修会	7/26	33
6 高等教育開発センター	プログラミング教室	8/10	27
7 高等教育開発センター	夏休み子どもチャレンジ in アミュプラザおおいた 理科や算数を使って親子で遊ぼう	8/10	9
8 高等教育開発センター	夏休み子どもチャレンジ in アミュプラザおおいた プログラミング教室	8/11	21
9 高等教育開発センター	理科や算数を使って親子で遊ぼう	7/6～8/24	13
10 高等教育開発センター	将棋講座	8/19～8/23	47
11 理工学部	電磁技術が世の中を変える？！	8/9	21
12 高等教育開発センター	自分の声をもっと好きになる自分の声探しの旅（第1期）	9/9～10/29	10
13 理工学部	生活と健康に関わるメカトロニクス技術	10/19～10/20	32
14 経済学部	変動する国際政治・経済情勢を読み解く視点	9/26～10/31（6日間）	31
15 高等教育開発センター	自分の声を「調べ」にするための4つのレッスン（第3期）	11/12～12/17	10
16 高等教育開発センター	豊の国学 中央講座 リレー講演会	11/23	46
17 高等教育開発センター	第3回プログラミング教育研修会	11/30	52
18 高等教育開発センター	プログラミング教室（夏休み講座の落選者向け）	12/8	27
19 高等教育開発センター	自分の声をもっと好きになる自分の声探しの旅（第2期） *3/3, 3/17は中止	1/21～3/17	9
20 高等教育開発センター	第4回プログラミング教育研修会（竹田市）	1/28	25
21 高等教育開発センター	豊の国学 分野別講座「第1回」	2/8	30
22 高等教育開発センター	豊の国学 分野別講座「第2回」	2/9	24
23 高等教育開発センター	豊の国学 分野別講座「第3回」	2/15	17
24 高等教育開発センター	小学生ラグビー教室 *中止	3/1, 3/8	-
25 高等教育開発センター	第13回地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会 *無期延期	2/29	-
26 高等教育開発センター	プログラミング教室 *中止	3/14	-
合計			540

○令和元年度（2019年度）における特徴的な公開講座事例

本学における公開講座はこれまで、高等教育開発センターが募集し、各部局から申請があった講座をベースに、高等教育開発センターが社会貢献や地域のニーズなどを勘案して企画した講座を加えて、「大分大学公開講座」として実施してきました。しかし、近年は大分大学教員が主体的に講座の企画・運営に当たっていただくケースも増えています。公開講座の多様化や社会的効用の向上という観点から重要と考え、センターとして積極的に支援を行っています。

たとえば、教育学部花坂歩准教授が企画・運営して下さっている「自分の声を『調べ』にする4つのレッスン」は高い受講ニーズを背景に年間に何度も（令和元年度（2019年度）は3講座）開設していただいております。少人数で実習を組み込む効果の高い講座となっています。

また、教育学部の市原靖士教授・中原久志准教授に企画・運営していただいているプログラミングに関する公開講座では、学校教員を主対象とする「プログラミング教育研修会」を会場を変えつつ3回開催し、子ども向けの「プログラミング教室」も3回計画しました（うち1回は新型コロナウィルスの影響で中止）。今後学校教育の中で展開されるプログラミング教育を先取りする内容であるとともに、子どもたちのニーズも高い講座です。



「自分の声を『調べ』にするための4つのレッスン」



学校教員対象「プログラミング教育研修会」

4.1.2. 公開授業

公開授業については、平成 30 年度（2018 年度）の開設科目数 66 科目に対し、令和元年度（2019 年度）は 86 科目（図 3）と増加しました。第 3 期末の評価で基準となる平成 27 年度（2015 年度）の開設科目数は 99 科目であり 13 科目（13.1%）の減少という状況です。新型コロナウイルスの影響を受け、今後オンラインでの授業実施も見据えた公開授業の規格・運営に取り組みます。なお、公開授業と公開講座、成果活用のパッケージ化プログラムについては、実験的取り組みの参加者から辞退の意向が伝えられ、取り組みの再デザインを行います。

表 2. 令和元年度（2019 年度）開設の公開授業一覧

(前期)		(後期)	
科目名	受講者数	科目名	受講者数
1 基礎中国語Ⅰ	0	1 基礎中国語Ⅱ	0
2 英語ゼミナール E：英語運用力養成訓練Ⅰ	4	2 英語ゼミナール F：英語運用訓練Ⅱ	10
3 古典文学講読	7	3 アジア文化論	6
4 TOEFL 英語Ⅰ	6	4 シネマで学ぶ健康と家族・社会の明日	3
5 政治経済学Ⅰ	3	5 化学史	1
6 臨床心理学概論	3	6 前近代日本の国家と社会	4
7 経営史	1	7 小学校外国語活動指導法	0
8 経済統計を読む	2	8 政治経済学Ⅱ	3
9 電気化学	0	9 臨床心理学実践論	3
10 解剖学	1	10 医療情報学	1
11 解剖学実習	0	11 カラダの見方・考え方	7
12 企業論	0	12 身近な物理学	1
13 スポーツと健康づくりの科学	3	13 労使関係論	0
14 学習ボランティア入門	0	14 海流とその研究	3
15 産業・組織心理学Ⅰ	4	15 産業・組織心理学Ⅱ	3
16 スポーツと生活	0	16 応用中国語Ⅱ	3
17 応用中国語Ⅰ	3	17 地域における仕事と社会	1
18 子どもにとっての福祉とは：社会的養護と家族支援	7	18 インストラクショナルデザイン入門	2
19 電力エネルギー工学	1	19 コミュニケーション入門Ⅱ	1
20 福祉テクノロジー入門	0	20 多文化共生論	1
21 文化人類学	1	21 日本語学Ⅰ	3
22 老年看護学概論	3	22 ユニバーサルデザインと人にやさしい社会	3
23 アカデミック・ライティング入門	0	23 グローバル化と政治経済	3
24 大分美術史概論	2	24 小学校英語演習	5
25 コミュニケーション入門Ⅰ	0	25 ベンチャー実践論	2
26 地生態学	7	26 プラズマ工学	0
27 化学Ⅱ	1	27 制度の経済学Ⅱ	0
28 研究開発マネジメント論Ⅰ	2	28 分子分光学	0
29 異文化間コミュニケーション論	1	29 イノベーション学説史	1
30 社会科学方法論入門	1	30 医療倫理学Ⅱ	1
31 EU の政治経済	4	31 基礎経営論Ⅱ	1
32 小学校英語演習	5	32 都市経営論Ⅱ	0
33 ベンチャー起業論	2	33 労働関係法Ⅱ	1
34 基礎経営論Ⅰ	0	34 健康心理学（健康・医療心理学 A）	6
35 共生社会論	3	35 人事システム論Ⅱ	0
36 制度の経済学Ⅰ	2	36 数値解析	1
37 生命観の変遷	1	37 知的財産入門	2
38 創造的思考法	1	38 TOEFL 英語Ⅱ	5
39 大学開放論：社会人の学びと大学生の学び	2	合計	87
40 保育学基礎論	1		
41 社会政策	1		
42 都市経営論Ⅰ	0		
43 労働関係法Ⅰ	1		
44 現代国際関係論	2		
45 システム L S I 設計特別講義	3		
46 技術革新論	2		
47 MOT 特論Ⅲ	0		
48 国際健康コンシェルジュ養成講座	4		
合計	97		

令和元年度（2019 年度）公開授業受講者数合計 184 名

○公開授業に関する過去5年間の開設科目数および受講者数の変化

平成27年度（2015年度）から令和元年度（2019年度）までの公開授業開設科目数及び受講者数を示したものが図3・図4です。令和元年度（2019年度）は部門会議の各学部委員のご協力もあり開設科目数を増加させることができました。今後も担当教員に積極的に授業を開放していただけるよう公開授業を推進していきます。

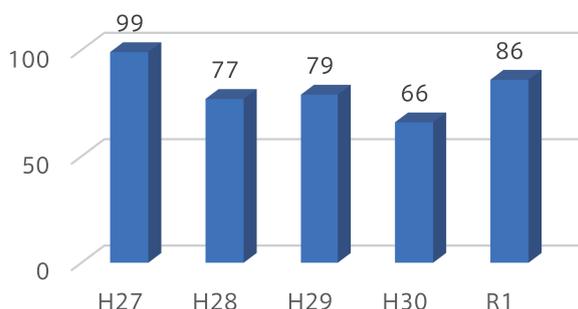


図3. 過去5年間の公開授業開設科目数

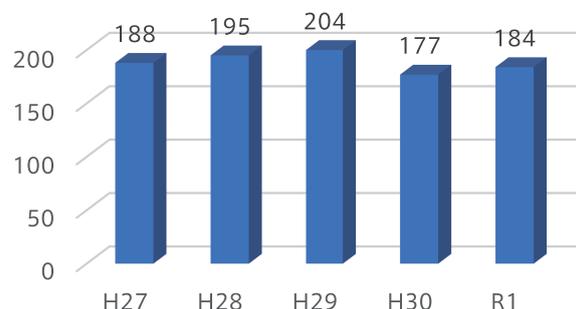


図4. 過去5年間の公開授業受講者数

4.2. 大学教育と生涯学習の接続・連携

4.2.1. 生涯学習・社会教育に関する授業の実施（教養教育）

例年通り、生涯学習・社会教育に関する授業科目を開設しました。開設した科目は、「大学開放論」「学習ボランティア入門」「プロジェクト型学習入門1」「プロジェクト型学習入門2」「大分の水Ⅰ」「大分の水Ⅱ」です。なお、「高度化学習ボランティア実践」は受講者がいなかったため開講しませんでした。

4.2.2. 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+ 事業）

COC+ 事業に協力し、上記科目を「大分を創る科目」に登録しました。

4.3. 地域生涯学習支援システムの整備への取り組み

本センターの役割として、公開講座・公開授業などの学習機会を直接提供するとともに、県民の生涯学習を支援するシステムづくりに向け、その中で重要な役割を果たす社会教育関係職員、指導者・ボランティアなどといった支援者の力量の向上にも取り組み、間接的に地域住民の学習を支援することも重要となります。そこで、これらの支援者も含めた連携のシステムの構築を通じての地域貢献を図るため、次の取組をおこないました。

4.3.1. 生涯学習支援ネットワーク化の取組

①県及び市町村教育委員会とのネットワークづくり

社会教育関係職員やボランティアなどの研修について、講師を担当するのみでなく、県教育庁社会教育課や県立図書館学校・地域連携課と、個別の研修事業に関する打ち合わせ会を実施するなどして、連携を深める取組をおこないました。研修の担当だけでなく、事前課題の設定や研修後の実践支援にもセンター事業として関与し、取り組みの深化や発展を支援しました。

直接的な実践支援としては、由布市教育委員会との自治公民館モデル事業の推進（淵6区、海老毛区）に協力しました。

②県内高等教育機関のネットワーク化

「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の生涯学習関係事業（連携講座）において分科会を行う中で、各学校の現状を把握するとともに、担当者との意思疎通を図ることができました。さらに、「豊の国学」として講座（中央講座、分野別講座、関連講座、協賛講座）を提供するシステムを形成して取り組んでいます。

4.3.2. 支援団体等の活動

①大分大学学生の学習ボランティアサークル「フォーバル」の活動

高等教育開発センターでは、学生自身が学びながら地域住民の学びを支援する学習ボランティアの育成に取り組んでい

ます。近年は、大学周辺地域との交流活動を行う「WITH（ウィズ）」、県内の学校や施設等で読み聞かせ活動を行う「ゆい（結い）」、別府市内の子ども達への学習支援等の活動を行う「コネクト」の3つのグループが活動しており、センターとしてはその支援を行いました。

② NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットワークとの連携

NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットワークは、本センターが実施した「協育」アドバイザー養成講座受講者によって組織され、県内の「子育てにおける教育の協働」に向けて取り組みを進めています。なお、「協育」アドバイザーネットワークが例年実施している地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会は、今年度も第13回大会を開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で無期延期となり、令和2年度（2020年度）内で改めて開催する計画です。第13回大会の実施要項は下記の通りです。（<https://www.he.oita-u.ac.jp/13design-gaiyou/>）

4.3.3. 全国国立大学生涯学習系センター協議会への関与

センター専任教員が理事（副会長）として全国国立大学生涯学習系センター協議会の運営に取り組んでいます。年に1回フォーラム・総会を開催するとともに、近年は年に1回文部科学省との意見交換会も開催しています。社会教育主事をはじめとする社会教育関係職員の力量向上に関する共同研究や大学生涯学習 IR のデータ集積などの取り組みも継続的に展開しています。近年、生涯学習系センターの改組が進行しており、協議会の活動にも課題が多く存在しますが、センターの大学間連携や自治体生涯学習推進センター等との連携など、センター機能の向上に向けてさらに取り組みを進めます。

5. 令和元年度（2019年度）高等教育開発センター名簿



高等教育開発センター運営委員会

	氏名	所属等
委員長（平成31年4月～令和元年9月）	西野 浩明	高等教育開発センター長（平成31年4月～令和元年9月）
委員長（令和元年10月～）	中島 誠	高等教育開発センター長（令和元年10月～）
委員	牧野 治敏	高等教育開発センター次長
委員	岡田 正彦	高等教育開発センター
委員	鈴木 雄清	高等教育開発センター
委員	正木 遥香	高等教育開発センター
委員	財津 庸子	教育学部
委員	高山 英男	経済学部
委員	中川 幹子	医学部
委員	古家 賢一	理工学部
委員	徳丸 治	福祉健康科学部
委員	吉田 和幸	学術情報拠点運営会議
委員	小田 和広	産学官連携推進機構運営会議
委員	堀池 幸浩	研究・社会連携部長
委員	人見 達也	学生支援部長

新規授業・カリキュラム開発部門

	氏名	所属等
部門長（平成31年4月～令和元年9月）	西野 浩明	高等教育開発センター長（平成31年4月～令和元年9月）
部門長（令和元年10月～）	中島 誠	高等教育開発センター長（令和元年10月～）

メディア・IT活用部門

	氏名	所属等
部門長	鈴木 雄清	高等教育開発センター
センター員	牧野 治敏	高等教育開発センター
センター員	中原 久志	教育学部
センター員	藤井 弘也	教育学部
センター員	豊島慎一郎	経済学部
センター員	三重野英子	医学部
センター員	槌田 雄二	理工学部
センター員	阿南 雅也	福祉健康科学部
センター員	吉崎 弘一	学術情報拠点

FD・授業評価部門

	氏名	所属等
部門長	牧野 治敏	高等教育開発センター
センター員	鈴木 雄清	高等教育開発センター
センター員	中川 裕之	教育学部
センター員	城戸 照子	経済学部
センター員	中川 幹子	医学部
センター員	大津 健史	理工学部
センター員	紀 瑞成	福祉健康科学部

大学開放推進部門及び生涯学習支援システム部門

	氏名	所属等
部門長（大学開放推進部門）	岡田 正彦	高等教育開発センター
部門長（生涯学習システム部門）	正木 遥香	高等教育開発センター
センター員	小山 拓志	教育学部
センター員	久保田 亮	経済学部
センター員	藤木 稔	医学部
センター員	小畑 経史	理工学部
センター員	廣野 俊輔	福祉健康科学部

事務スタッフ

	氏名	所属等
主任（統括）	獅々賀 ゆかり	教育支援課教育企画グループ
FD・授業評価担当	加藤 梨沙	教育支援課教育企画グループ
公開授業・公開講座担当	島田 青伊	教育支援課教育企画グループ

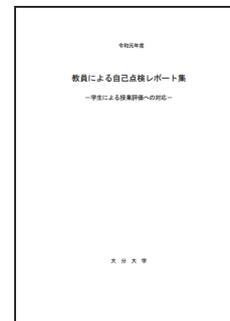
6. 教員向けお知らせ



6.1. 教員による授業の自己点検レポート

「学生による授業評価アンケート」を活用した教育改善への方策の一つとして、「教員による自己点検レポート」を作成しています。学生への真摯な対応とアンケート結果を授業の改善や教育力向上に役立てることを目的に、教員が自らの授業をふり返り、気づきや改善点などを400字程度のレポートにて提出してもらう制度で、平成15年度（2003年度）より実施しています。

提出いただいたレポートは、年度毎に「教員による自己点検レポート集：学生による授業評価への対応」としてまとめ、高等教育開発センターのホームページ上に学内限定で公開しています。各レポートにはアンケート結果をもとにした授業への省察や自由記述に対する回答、授業改善のティップスの紹介など、参考となる内容が記載されています。ご一読されてはいかがでしょうか。



教員による自己点検レポートページ（学内のみ）

<https://www.he.oita-u.ac.jp/pub/self-assessment/>

6.2. 公開授業科目開設のお願い

「公開授業」は大学正規科目を公開講座と同等の受講料で開放する取り組みで、大分大学では、平成12年度（2000年度）より実施しています。本学では、担当教員の意向調査により開設可と回答していただいた教養教育科目、学部専門科目を「大分大学公開授業」として開放しています。受講料は全15回を受講する場合、9,638円です。単位は認定されません。受講者は比較的低額の受講料で高等教育レベルの授業を受講することができ、社会人が一緒に受講することで大学生の意欲が向上したり授業が活性化したりするなど効果も報告されています。

この事業の促進法策として、「大分大学公開授業」として科目を開設して頂き、受講があった場合には、その受講料収入の半額分を消耗品購入に使用していただく取り組みを実施しています。来年度も引き続き実施しますので、担当授業科目の開放にご協力をお願いします。

6.3. 公開講座企画募集のお知らせ

地域住民を対象に企画・運営する公開講座を大分大学でも長年実施しています。現在、「大分大学公開講座」は高等教育開発センターが所管し、各部局からの企画と高等教育開発センターの企画を主として実施しています。受講料は「5時間を超え10時間以内」6,495円など時間量で決まっていますが、公共的な性格のものや対象が児童・生徒であるものなどについては減免措置もあります。

高等教育開発センターでは、個人的に公開講座を企画・実施してみたい方（教員・職員問わず）の企画を募集しています。「大分大学公開講座」として位置づけて実施していただく講座については、センター教員の支援によりプログラムをデザインし、必要な広報や物品の購入を行います。講座当日の運営（設営や受付、講座の補助など）も行います。公開講座の実施にご興味のある方は、お気軽に高等教育開発センター事務担当までご連絡ください。

大分大学高等教育開発センターレポート 平成31年度／令和元年度（2019年度）報告書号

発行 令和2年（2020年）9月

編集 大分大学高等教育開発センター

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

(097) 554-8509 hecenter@oita-u.ac.jp <https://www.he.oita-u.ac.jp>

印刷 今心株式会社（大分営業所）

〒870-0883 大分県大分市大字永興 657-2

〈編集委員〉中島誠、牧野治敏、岡田正彦、鈴木雄清、正木遥香 〈事務担当〉田頭慶樹、島田青伊、福永智子